

市立福知山市民病院大江分院の存続を求める意見書

厚生労働省は、令和元年9月26日、公立・公的病院の25%超にあたる全国424の病院について「再編・統合の議論が必要な病院名」を公表した。その中に市立福知山市民病院大江分院の名前が挙げられたことに対して、市民は不安と戸惑いを感じている。

大江分院は、平成27年度に国保新大江病院を引き継ぎ、市立福知山市民病院の分院としてスタートをきり、地域医療の基幹病院として、訪問医療や在宅医療の強化を図り人材育成にも努めてきた。経営状況も分院化以降、著しく好転し、市民病院本院を始め、他の医療機関の後方支援施設として、地域医療の重要な役割を果たしている。また、既に病床のダウンサイジングなど、医療環境の変化に対応した取り組みが続けられており、地域にとってはかけがえのない病院である。

全国的に人口減少が進み、病院経営を取り巻く環境は厳しい状況となっていくが、地域の医療環境を守っていくためには、国においても地域の実情を十分に踏まえた議論が行われることが重要である。

よって本市議会は国に対して、下記の事項を強く求めるものである。

記

- 1 地域医療を支える市立福知山市民病院大江分院の意義・役割を十分に理解するとともに、今後の存続を強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年10月23日

衆議院議長 大 島 理 森 様
参議院議長 山 東 昭 子 様
内閣総理大臣 安 倍 晋 三 様
財務大臣 麻 生 太 郎 様
厚生労働大臣 加 藤 勝 信 様

福知山市議会議長 芦 田 眞 弘